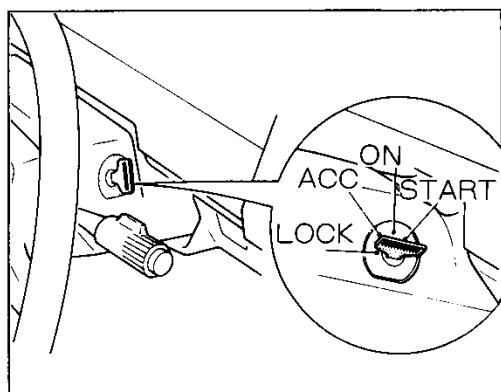


運転装置の使い方

エンジン・スイッチ	38
エンジンのかけ方	39
エンジンの止め方	45
マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	45
オートマチック・トランスミッション	45
パーキング(駐車)・ブレーキ	49



エンジン・スイッチ

■各位置の働き

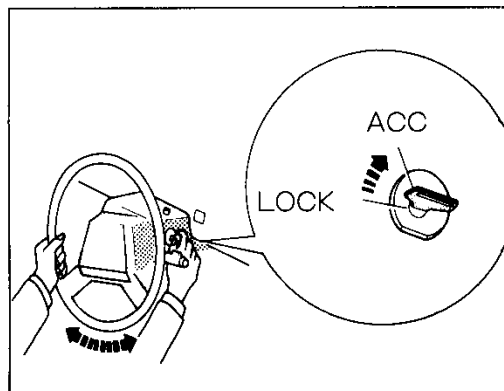
- LOCK キーを抜き差しできる位置。キーを抜くとハンドルがロックされます。
- ACC エンジン停止時、下記のものを使用できます。
ラジオ、カセット・ステレオ、シガレット・ライター
- ON エンジン回転中の位置。
- START エンジンを始動する位置。



ちょっと一言

エンジンが始動したら手を離してください。
START位置のままにしているとエンジンを損傷するおそれがあります。

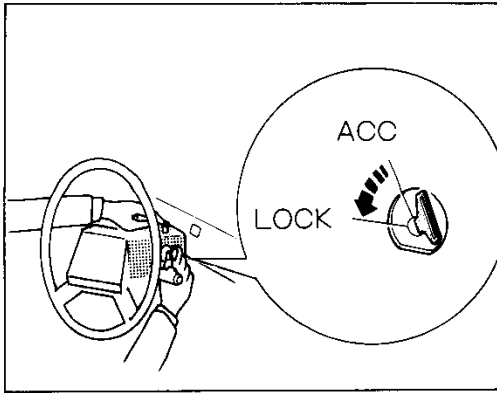
また、エンジンがかからないとき、15秒(ディーゼル車は30秒)以上STARTの位置へ回したままにしないでください。バッテリーあがりを起こすおそれがあります。



▶ LOCKからACCに回すとき

キーが回りにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。

エンジン・スイッチ/エンジンのかけ方



▶ ACCからLOCKに回すとき

ボタンを押しながらキーを回します。キーを抜くとハンドルがロックされ車両盗難防止に役立ちます。



バッテリーあがりを起こさないために、次の事項を必ず守ってください。

1. エンジン停止時はスイッチをLOCKまたはACCにする。長時間停止する場合はキーを抜く。
2. エンジンを止めた状態（ONまたはACC）で、ラジオ、カセット・ステレオを長時間使用しない。

	マニュアル(ギヤ式)	オートマチック
ブレーキ		
チェンジレバー		

エンジンのかけ方

始動するときは必ずブレーキ・ペダルを踏むか、パーキング(駐車)・ブレーキをかけ、チェンジレバーは左図の位置です。



ターボの場合、始動直後は、エンジンの急激な空ふかし、または急加速をしないでください。ターボ機能を損なうおそれがあります。



以下の項目は次のよう
にお読みく
ださい。

エンジン始動時の要領は、搭載されているエンジンの型(排気量)によって少しづつ異なります。ここでは排気量ごとにエンジンの始動要領をまとめてありますので、車の型やグレードに関係なく、あなたのお車の排気量に該当する項だけをお読みください。その後は45ページの「エンジンの止め方」に移ってください。

運転装置の使い方

ガソリン1800CCの場合

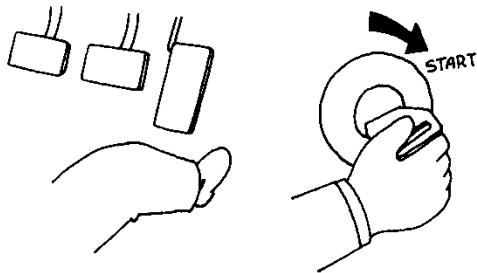
👁️ 13T-J、1S-Uエンジン搭載車

▶エンジンが冷えているとき

1. アクセル・ペダルを次表にしたがって踏み込みます。

外気温	踏む回数
+5℃以上	軽く1回
+5℃～-10℃	いっぱい1～2回
-10℃以下	いっぱい2～3回

2. アクセル・ペダルから足を離し、エンジン・スイッチをSTARTの位置に回しエンジンを始動します。



3. しばらく暖機運転をします。

自動チョークが働いていますので、エンジン回転は徐々に高くなります。

4. 回転が高くなったときは、アクセル・ペダルを軽く踏んでから足を離し回転を下げてください。



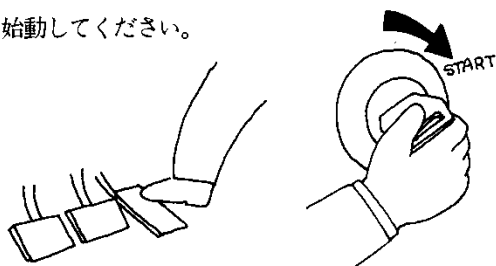
注意！

1. エンジンが暖機されると自動的に回転は下がりますが、暖機運転中は回転が高くなりすぎることがあります。

2. 外気温によって異なりますが、約20℃のときであれば、エンジン始動後約30秒で、アクセル・ペダルを軽く踏んで離し、回転を下げてください。

▶エンジンが暖まっているとき

アクセル・ペダルを半分程度踏み込んだままエンジンを始動してください。

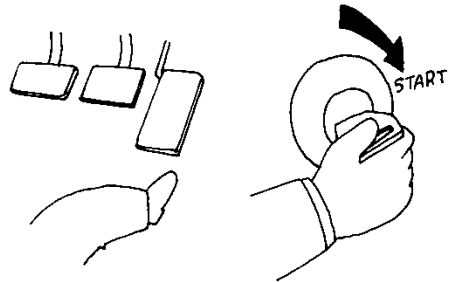


半分程度踏み込む

ガソリン2000CCの場合

👁️ 1G-EU、M-TEU(ターボ)エンジン搭載車

1. アクセル・ペダルから足を離したままエンジン・スイッチをSTARTの位置に回しエンジンを始動します。



2. そのままで、しばらく暖機運転をします。暖機が終われば自動的にエンジン回転が下がります。



注意！

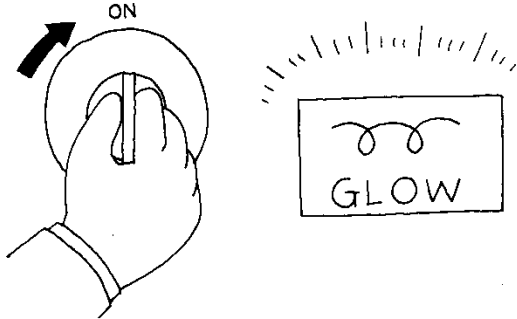
ターボ車は、ターボ機能を損なうおそれがありますので始動直後は、エンジンの急激な空ふかし、または急加速をしないでください。

ディーゼル2200CCの場合

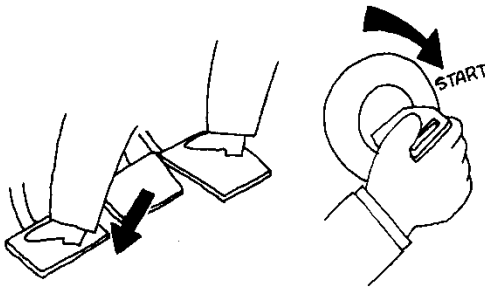
① エンジン搭載車

ディーゼル車の始動はガソリン車と異なり、予熱プラグによるエンジン内部の加熱が必要です。

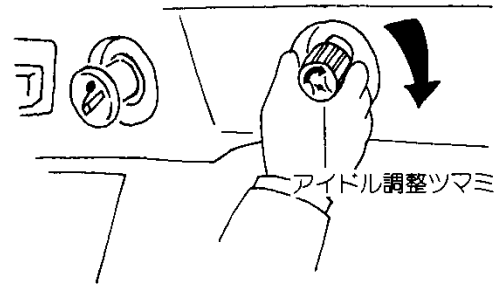
1. エンジン・スイッチをONにすると予熱表示灯が点灯します。



2. 予熱プラグによる加熱が完了し、表示灯が消灯したらアクセル・ペダルおよびクラッチ・ペダルをいっぱい踏み込んだまま、エンジン・スイッチをSTARTの位置に回します。



4. エンジン始動後、アイドル調整ツマミを右方向に回してエンジンが安定して回るところまで回転を上げ、十分暖機運転をします。



5. 暖機後は、アイドル調整ツマミを左いっぱいに戻し、標準のアイドル回転にもどします。



ちょっと一言

1. 表示灯が消灯しないうちに始動しないでください。始動が困難になるばかりでなく、バッテリーあがりの原因になります。
2. 加熱時間は、エンジン冷却水温によって自動的に制御され、冷却水温の低いとき、および寒冷時には多少長くなります。

3. エンジンの回転が完全に持続するまで、エンジン・スイッチをSTARTの位置のままにしておきます。アクセル・ペダルおよびクラッチ・ペダルはいっぱい踏んだままにしておいてください。



ちょっと一言

- 約30秒経過してもエンジンを始動できない場合は、いったんエンジン・スイッチをACCの位置にもどし、少し間をおいてから1～3を繰り返してください。

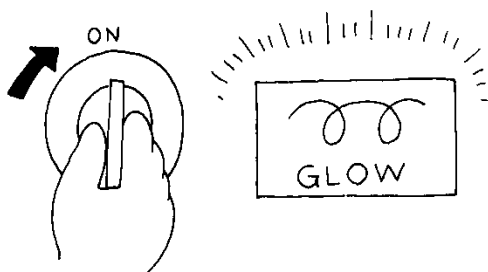


ディーゼル2400CCの場合

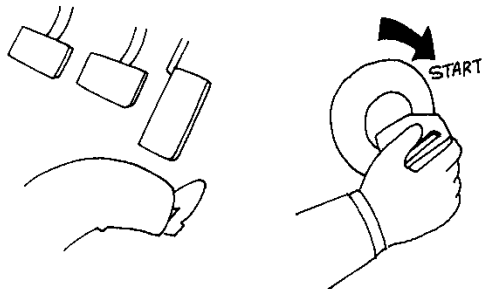
2L-TEエンジン搭載車

ディーゼル車の始動はガソリン車と異なり、予熱プラグによるエンジン内部の加熱が必要です。

1. エンジン・スイッチをONにすると予熱表示灯が点灯します。



2. 予熱プラグによる加熱が完了し、表示灯が消灯したらアクセル・ペダルから足を離したまま、エンジン・スイッチをSTARTの位置に回し、エンジンを始動します。



ちょっと一言

1. 表示灯が消灯しないうちに始動しないでください。始動が困難になるばかりでなく、バッテリーあがりの原因になります。
2. 加熱時間は、エンジン冷却水温により自動的に制御され、冷却水温の低いとき、および寒冷時には多少長くなります。

3. エンジンの回転が完全に持続するまで、エンジン・スイッチをSTARTの位置のままにしておきます。

4. そのままで、しばらく暖機運転をします。暖機が終われば自動的にエンジン回転が下がります。



ちょっと一言

1. 約30秒経過してもエンジンを始動できない場合は、いったんエンジン・スイッチをACCの位置にもどし、少し間をおいてから1～3を繰り返してください。
2. 寒冷時、電熱ヒーターにより冷却水を暖めて始動性をよくするエンジン・ヒーターが寒冷地仕様車に注文装備として設定されています。取り扱い方法は108ページを参照してください。

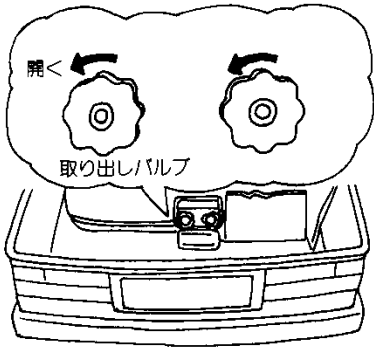


注意!

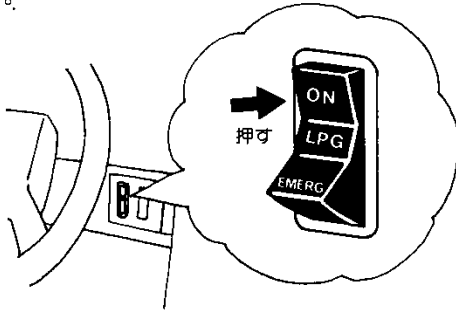
ターボ機能を損なうおそれがありますので始動直後は、エンジンの急激な空ふかし、または急加速をしないでください。

LPG車の場合

1. トランク内の燃料取り出しバルブをいっばいに開きます。



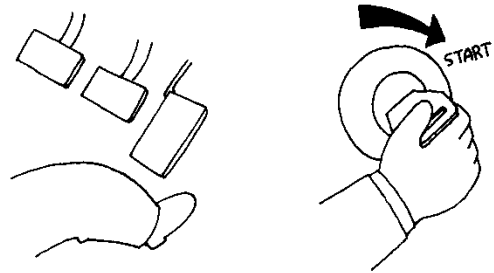
2. LPGスイッチのON側を押してスイッチをONにします。



始動時および走行中はLPGスイッチをONの位置にし、長時間駐車するときはOFF(中立の位置)にしてください。

ちよっと一言

3. スロットル・ボタンがもどしてあることを確認し、アクセル・ペダルから足を離したままエンジン・スイッチをSTARTの位置に回します。

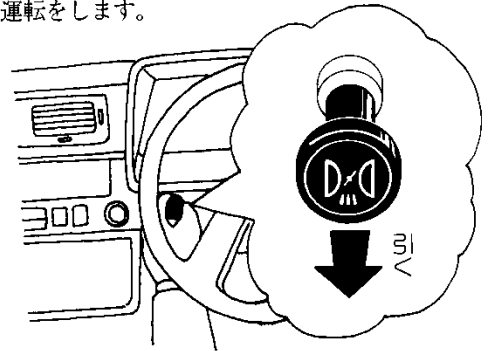


4. 初爆後、アクセル・ペダルをわずかに踏み、回転を安定させてからエンジン・スイッチをONの位置にもどします。

エンジンを始動する前に必ずスロットル・ボタンがもどっていることを確認してください。また、アクセル・ペダルをいっばい踏み込むと燃料が薄くなり、エンジンがかかりにくくなります。

ちよっと一言

5. エンジン始動後は、スロットル・ボタンを引いてエンジンが安定して回るころまで回転を上げ、十分暖機運転をします。



6. エンジンが暖まったらスロットル・ボタンをもどします。

エンジン始動後5～6分は、極端にアクセル・ペダルをあおることはやめてください。気化熱がレギュレーターを凍結させたり、エンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

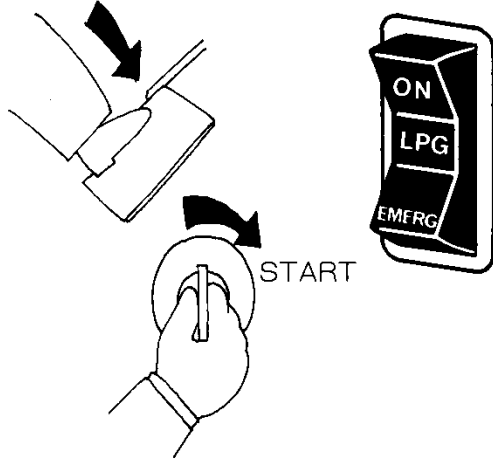
ちよっと一言

運転装置の使い方

エンジンのかけ方

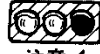
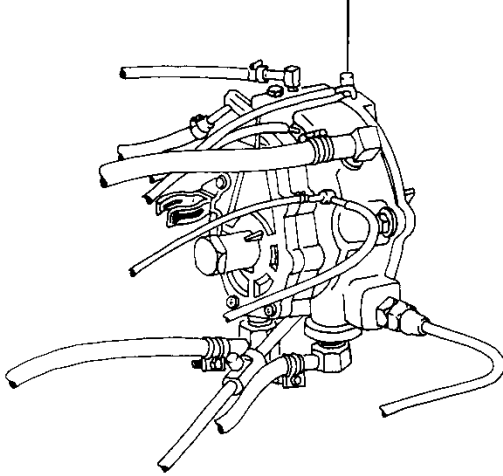
▶エンジンがかかりにくいときは

1. LPガスが濃すぎるときは、アクセル・ペダルをいっぱい踏むか、LPGスイッチをOFFにし、少しスターターを回してからかけなおします。



2. LPガスの出方が薄すぎるときは、レギュレーター・のフューエル・テスト・バーを2～3回うしろ側に押してからかけなおします。

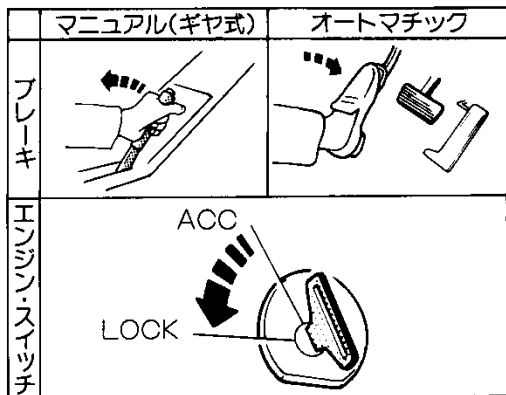
フューエル・テスト・バー



注意!

1. 外気温が低いとき(0℃以下)でエンジンがかからなかったときは、しばらくそのままにしてください。連続してエンジンを始動すると、レギュレーターが凍結するおそれがあります。
2. 万一始動に失敗したときは、レギュレーターをぬるま湯で暖めます。その場合、レギュレーター以外の部分にぬるま湯がかからないように注意してください。
3. エンジンが暖まらないうちに、レギュレーターが凍結することがありますので、冷却液は必ずキャッスル・ロングライフ・クーラントを50%の濃度にしていてください。

- ☞ LPG車に関するその他の取り扱いなどは110ページの「LPG車の上手な取り扱い」にまとめてあります。



エンジンの止め方

1. パーキング(駐車)・ブレーキをかけます。
2. エンジン・スイッチをACCまたはLOCKの位置にします。



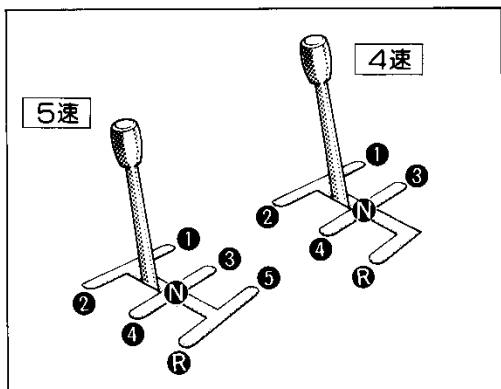
注意!

ターボ車は、ターボ機能を損なうおそれがありますので、高速走行、登坂路走行直後にエンジンを停止するときは、右の表にしたがって必ずアイドル運転をしたうえで停止してください。

[参考]エンジン停止前のアイドル運転時間

運 転 状 況		アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行		必要なし
高速走行	約80km/h定速	約20秒
	約100km/h定速	約1分
山岳ドライブ・ウェイなどの急な登坂路走行およびレース場など100km/h以上の連続走行		約2分

運転装置の使い方



マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション

1. **R** はリバース(後退)を示します。



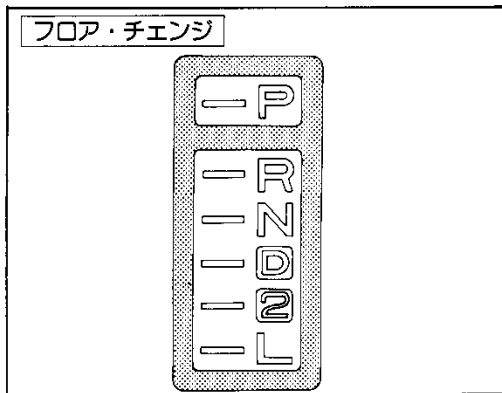
5速

2. **5** → **R** へは直接入れることができません。いったん **N** にしてから **R** へ入れてください。

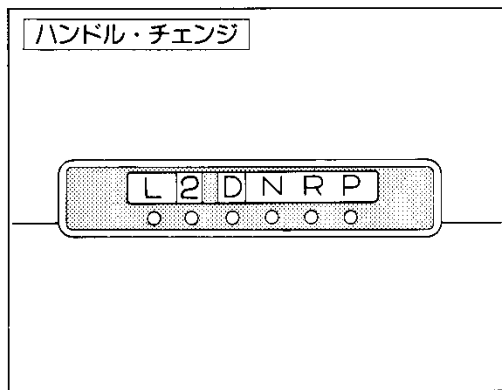
オートマチック・トランスミッション

1G-EUは、2ウェイ・オーバードライブ付き4速フル・オートマチック・トランスミッションです。これはオーバードライブ付き4速フル・オートマチック・トランスミッションに、ロック・アップ機構を加え、燃費を向上させたものです。取り扱い方法は、走行状態により自動的にロック・アップするので、オーバードライブ付き4速フル・オートマチック・トランスミッションと同じです。

フロア・チェンジ

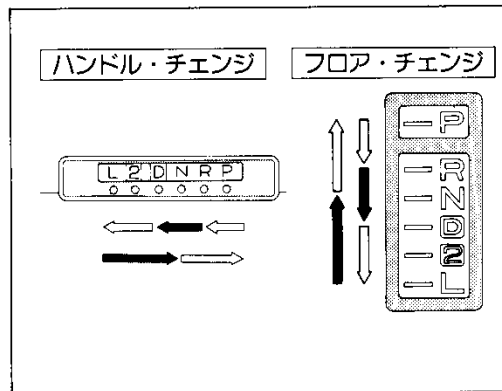


ハンドル・チェンジ

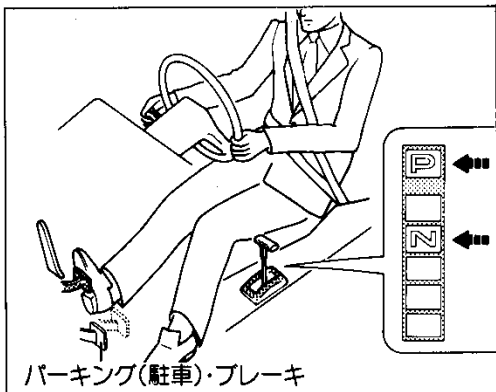


ハンドル・チェンジ

フロア・チェンジ



パーキング(駐車)・ブレーキ



▶各位置の働き

- ⒫パーキング(駐車).....駐車およびエンジン始動の位置
- ⒱リバース(後退).....バックさせるときの位置
- Ⓖニュートラル(中立).....この位置でもエンジンを始動することができますが、安全のため⒫の位置で始動してください。

- Ⓓドライブ.....通常走行の位置
- Ⓐセカンド(2速).....エンジン・ブレーキが必要なとき使う位置
- Ⓖロー(1速).....強力なエンジン・ブレーキが必要なとき使う位置

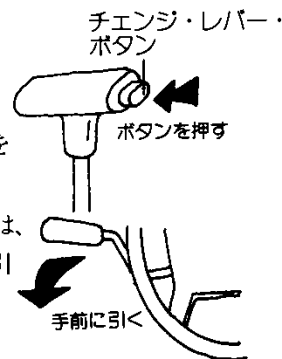


●ローは50km/h(ディーゼル車は45km/h)以上では使用しないでください。

▶レバーの動かし方

➡そのまま動かします。

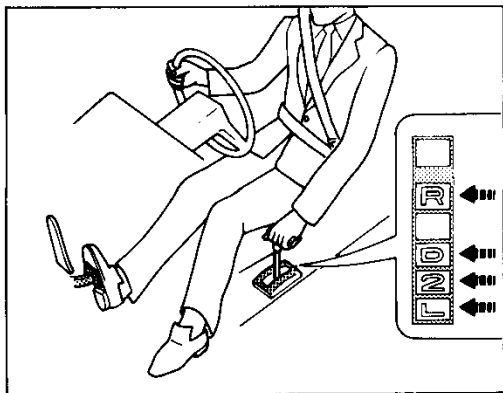
- ➡●フロア・チェンジの場合は、チェンジ・レバー・ボタンを押して動かします。
- ハンドル・チェンジの場合は、チェンジ・レバーを手前に引いて動かします。



▶運転のしかた


1. エンジン始動

エンジンの始動は、必ずブレーキ・ペダルを踏んだまま、あるいはパーキング(駐車)・ブレーキをかけたまま⒫で行います。(Ⓖでも始動できますが、安全のため⒫で行ってください)



2. 発進

発進は右足でブレーキ・ペダルを踏んだまま、前進は①または②、後退は④にチェンジ・レバーを操作し、レバー位置を確認した後ブレーキを解除して、アクセル・ペダルを踏み発進します。



注意！

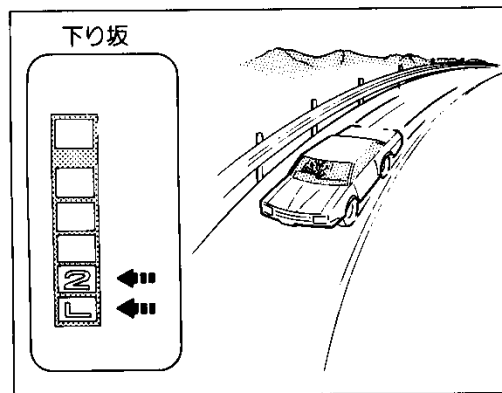
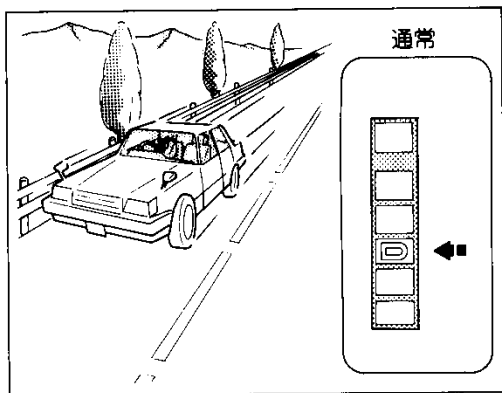
1. チェンジ・レバー操作は、③、④以外のレバー位置では車が走り出す状態になりますので、必ずブレーキ・ペダルを踏んだまま行ってください。
2. アクセル・ペダルを踏み込んだまま、チェンジ・レバーを操作しないでください。
3. またエンジン回転が高いときは、ブレーキ・ペダルを強く踏んだままチェンジ・レバーを操作してください。急発進の危険があります。



運転装置の使い方

3. 走行

- 通常は①で発進すると、スピードにより自動的にギヤが切り替わります。
- マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション車と同様、④から発進し、②から①へと手動の操作でも運転できます。

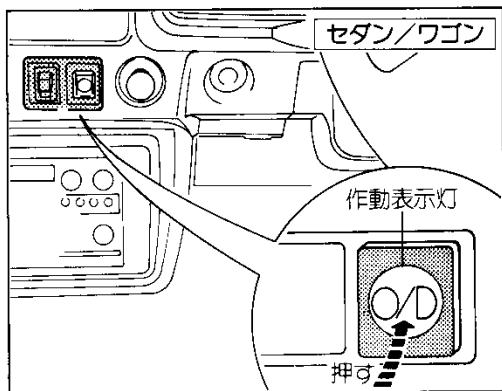


- 下り坂では路面状態やスピードに応じ②または④に入れてエンジン・ブレーキをかけます。
- 追い越しなど急加速したいときはアクセル・ペダルをいっぱい踏み込むと、チェンジ・レバーは①のままでもスピードにより自動的にギヤが切り替わって急加速できます。



注意!

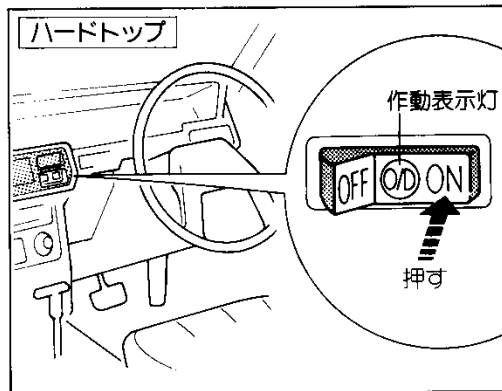
1. 走行中①にしていることはやめてください。エンジン・ブレーキが効かなくなります。
2. 前進から後退、後退から前進にチェンジ・レバーを操作するときは、車が完全に止まってから、ブレーキ・ペダルを踏んだまま、確実に行ってください。
3. ①にしているときは車が完全に止まってから、ブレーキ・ペダルを踏んだまま、確実に行ってください。
4. 長い坂道を下るときなどには、チェンジ・レバーを②または①にして車速に適したエンジン・ブレーキを使用してください。ただし、すべりやすい路面では、タイヤがスリップして危険ですので急激なエンジン・ブレーキをかけることはさけてください。



〔オーバードライブ・スイッチの用法〕

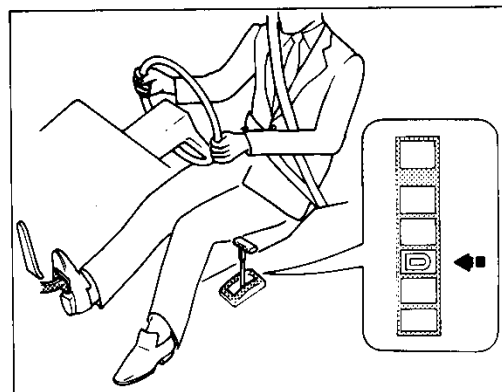
バンとLPGを除く

- 通常走行時はオーバードライブ・スイッチをONにしておいてください。4速オートマチック・トランスミッションとして働きます。
- オーバードライブが作動しているときは作動表示灯が点灯します。ただし、ターボ車は装置の作動に関係なく、ライト・スイッチをONにすると、作動表示灯が点灯します。
- オーバードライブ・スイッチをOFFにしておけば3速オートマチック・トランスミッションとして働きます。



ちょっと一言

1. エンジンの冷却水が冷えている場合には、オーバードライブ装置が作動しません。(ディーゼル車を除く)
2. 山道などの長い坂道を走行するときは、エンジン・ブレーキの効きをよくするため、スイッチをOFFにしておいてください。



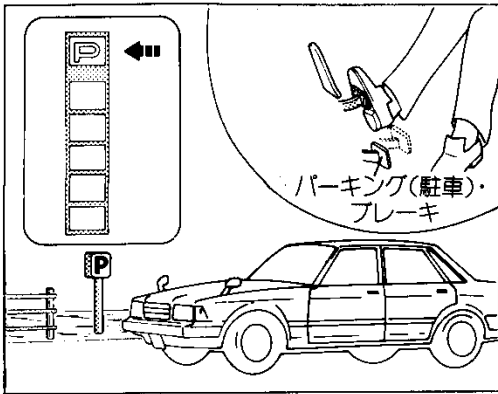
4. 一時停止

一時停止のときは、①、②、L、Rのまま、ブレーキ・ペダルを確実に踏むか、そのつどNにしてブレーキ・ペダルを確実に踏みます。



注意!

1. 上り坂で停止するときには、アクセル・ペダルを踏みながら車を止めておくような運転はしないでブレーキを使用して確実に止めてください。
2. 一時停止のときは、必ずしもNにする必要はありません。



5. 駐停車

駐停車するときは車が完全に止まってから、ブレーキ・ペダルを踏んだままチェンジ・レバーをPに置いて、パーキング(駐車)・ブレーキを確実にかけます。



注意!

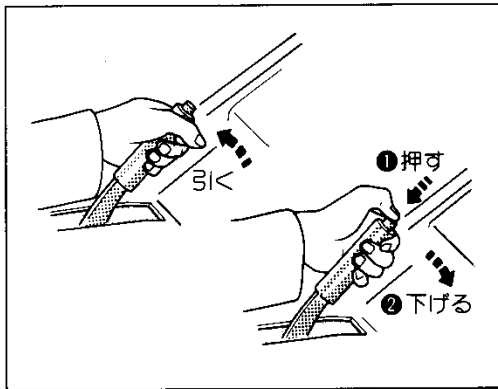
1. 駐停車中は、むやみにエンジンを高回転にしないでください。
2. 駐停車中にPに確実にはいっていないと、外部からのショックなどで、車が動くおそれがあります。

パーキング(駐車)・ブレーキ



注意!

パーキング(駐車)・ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

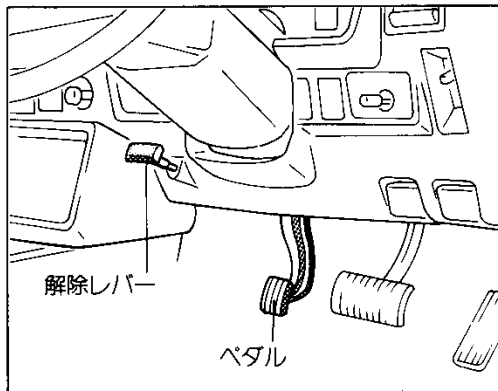


■マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション車

1. 駐車するときは、ボタンを押さずにレバーをいっぱい引きます。
2. もどすときはレバーを少し引き上げながら、①先端のボタンを押さえて、②もどします。

■オートマチック・トランスミッション車

1. 駐車するときは、ペダルを強くいっぱい踏み込みます。
2. もどすときは、解除レバーを引きます。



▶ 駐車のしかた

1. パーキング(駐車)・ブレーキをかけます。
2. チェンジ・レバーを、マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション車はLロー(1速)またはRリバース(後退)、オートマチック・トランスミッション車はPの位置にします。



ちょっと一言

1. 坂道では輪止め(搭載工具に含まれています)を忘れず使用してください。
2. 急な坂道での駐車はしないでください。

